

僕にとって、クルマも野球も夢やあこがれの一つ。だから今でもクルマが好きなのもかもしれませんね。

野球一筋、現役時代はケガなどの試練を乗り越えて、数々の偉業を成し遂げた“大魔神”こと佐々木主浩さん。子どもの頃からのクルマ好きが講じて、フォーミュラ・ニッポンのチームオーナーとなったり、現在では馬主として競馬界を牽引し、活躍の場を広げています。引退後も、夢や希望を与え続ける佐々木さんの愛車にダイヤモンドキーパーを施工させていただきながら、お話を伺いました。

佐々木主浩さん

KAZUHIRO SASAKI



「誰にも邪魔されない一人だけの空間で音楽をガンガンかけるのが好き」

子どものころからクルマが大好きでした。スーパーカー世代ですからね。ガチャガチャでスーパーカー消しゴムを集めていた世代ですよ、僕は。横浜スタジオアの近くにディーノやミウラが置いてあるディーラーがあって、一度本気でミウラ買おうと思って行きましたもん。でも「これ、運転できないよなあ・・・」ってあきらめました(笑)。



「帰りに足がつつちやいましたもん(笑)。これまでいろいろ乗りましたが、今のクルマは乗りはじめて5年くらいになるかな。形も乗り心地もよくて長く乗っています。」

クルマの誰にも邪魔されない一人だけの空間が好きなんです。音楽をガンガンかけて走ると心地いい。現役中はノリのいい曲をかけて、気分を高めていました。今は結構静かな曲が多いかもしれません。最近あまりドライブはしませんけど、仙台市の実家には、新幹線で行かずにクルマで行ったりします。とにかくクルマが好きなんですよね。

「スピード感、音、駆け引き・・・。レースは気の抜けない過酷なスポーツ」

レースも好きで、特にF1が一番盛り上がりつつあったセナの時代が一番よかったですね。あのスピード感と音。



たまらないですよ。どこでどう抜くとかという駆け引きも面白い。2002年と2003年に「TEAM22」というチームのオーナーとしてフォーミュラ・ニッポンに参戦したんですけど、2002年にチームにいた伊藤大輔選手が今、SUPER GTのキーパーのクルマに乗っているとは思ってないですね。たまたまメールくれるけど、本当に頑張っているよね。



コーティングがはじめてという佐々木さんのクルマには、ダイヤモンドキーパーを施工させていただきました。ガラスコーティング特有のツヤと輝きは新車以上。「鏡みたいだね。こんなにキレイになるとは思わなかったよ」と驚きの表情で愛車を眺めている佐々木さん。

「人のために頑張るから優勝を勝ち取り、勇気と元気を与えられる」

今回、楽天イーグルスがリーグ優勝をして思い出したのは、阪神淡路大震災のときのオリックスの優勝です。野球って、被災地の人たちのためになると、個人がまとまってひとつのチームになっていくだけあって強いなあと思った。人のためとなると、妥協が許されなくなる。結構、自分のために頑張ろうという選手は妥協することがあるんですね。人のために頑張るから、オリックスも楽天も妥協せず、みんな同じ方向を向くことができている。優勝できたんだと思うんです。仙台ってすごい野球好きな人が多いんですよ。今もなお仮設住宅に